

要約

高水温時に養殖施設を水温の低い底層へ沈めることで、へい死率が低減できる養殖技術を開発しました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

平成22年夏、異常高水温により陸奥湾の養殖ホタテガイが7割へい死しました。今後、地球温暖化により異常高水温に見舞われる可能性が高いことから、へい死率を低減できる養殖技術の開発に取り組みました。

2. 内容

- 成長の鈍化、衰弱、へい死する水温を明らかにしました（図1参照）。
- 高水温時には、栄養状態の良い貝ほどへい死しにくくなります。
- 高水温時に養殖施設を水温の低い底層へ沈めることでへい死率を低減できます。
- 研究成果を「ホタテガイ養殖管理情報」や学習会で普及指導しました。
- 平成24年、25年も26℃を超える異常高水温に見舞われましたが、へい死率を約2割に低減することができました。

3. 活用等

へい死率を低減できる養殖技術「ホタテガイ養殖管理情報」を活用することで、生産量を増加させることができます。

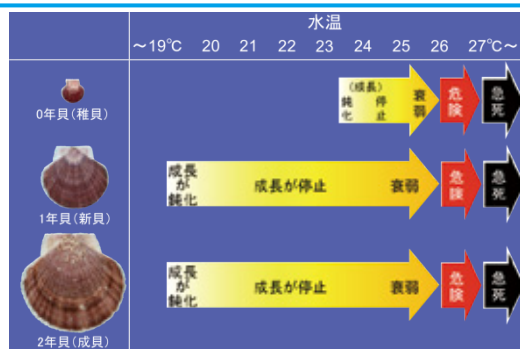


図1 年齢別のへい死メカニズム

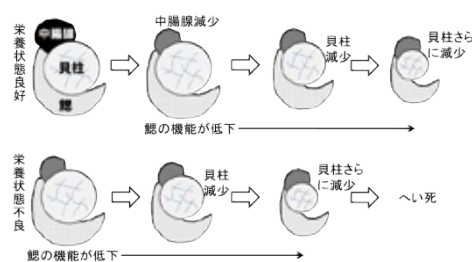


図2 栄養状態の異なる貝のへい死イメージ

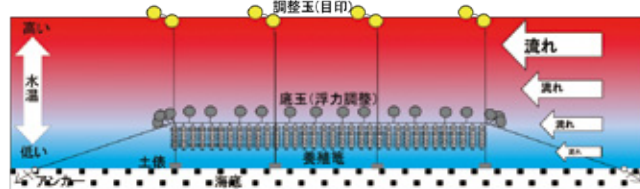


図3 高水温時の環境と養殖施設のイメージ

関連情報

- 本研究は農林水産省の農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業で行いました。
- この事業で、当研究所漁場環境部が陸奥湾の水温予測技術を開発し、予測水温をホームページや携帯電話などを通じて情報提供しています。

水産総合研究所 ほたて貝部

Tel. 017-755-2155

E-mail sui_souken@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

